

12月

新着本の紹介



青字は児童書

書名	著者名	内容
ミカエルの鼓動	柚月裕子	大学病院で、手術支援ロボット「ミカエル」を推進する心臓外科医・西條。そこへ、ドイツ帰りの天才医師・真木が現れ、西條の目の前で、ミカエルを用いない手術を、とてつもない速さで完遂する。難病の少年の治療の方針をめぐる、二人は対立。最先端医療か、従来の術式か。そんな中、西條を慕っていた若手医師が、自らの命を絶った。天才心臓外科医の正義と葛藤を描く。
地中の星	門井慶喜	渋沢栄一を口説き、五島慶太と競い、東京に地下鉄を誕生させた男の熱き闘い！ 資金も経験もゼロ。夢だけを抱いてロンドンから帰国した早川徳次は、誰もが不可能だと嘲笑した地下鉄計画をスタートアップし、財界大物と技術者たちの協力を取り付けていく。だがそこに東急王国の五島慶太が立ちはだかる！ 『家康、江戸を建てる』の著者がモダン都市東京の揺籃期を描く、昭和二年のプロジェクX物語。
闇祓	辻村深月	「うちのクラスの転校生は何かがおかしい——」クラスになじめない転校生・要に、親切に接する委員長・澁。しかし、そんな彼女に要は不審な態度で迫る。唐突に「今日、家に行っていない？」と尋ねたり、家の周りに出没したり……。ヤバい行動を繰り返す要に恐怖を覚えた澁は憧れの先輩・神原に助けを求めるが——。身近にある名前を持たない悪意が増殖し、迫ってくる。一気読みエンタテインメント！
民王 シベリアの陰謀	池井戸潤	「マドンナ・ウイルス？ なんじゃそりゃ」第二次内閣を発足させたばかりの武藤泰山を絶体絶命のピンチが襲う。目玉として指名したマドンナこと高西麗子・環境大臣が、発症すると凶暴化する謎のウイルスに冒され、急速に感染が広がっているのだ。緊急事態宣言を発令し、終息を図る泰山に、世論の逆風が吹き荒れる。一方、泰山のバカ息子・翔は、仕事で訪れた大学の研究室で「狼男化」した教授に襲われる。マドンナと教授には共通点が……！？ 泰山は、翔と秘書の貝原らとともに、ウイルスの謎に迫る！！
転がる検事に苔むさず	真島翔	第3回警察小説大賞受賞で鮮烈デビュー！！夏の夜、若い男が鉄道の高架から転落し、猛スピードで走る車に衝突した。自殺か、他殺か。戸惑う所轄署の刑事課長は、飲み仲間である検事・久我周平に手助けしてほしいと相談を持ちかける。自殺の線で遺書探しに専念するが、このセールスマンの周辺には灰色の影がちらついた。ペーパーカンパニーを利用した輸入外車取引、ロッカーから見つかった麻薬と現金——死んだ男は何者なのか。交番巡査、新人の女性検事とともに真相に迫る。
むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。	青柳碧人	日本昔ばなし×本格ミステリふたたび！ 2019年4月に刊行されるやいなや瞬く間にベストセラーとなった『むかしむかしあるところに、死体がありました。』の続編が誕生。今回収録されたのは、「かぐや姫」「おむすびころころ」「わらしべ長者」「さるかに合戦」「ぶんぶん茶釜」の5編。果たしてこれらの昔ばなしがどんなミステリになったのか。それぞれのつながりも楽しい短編集。
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2	ブレイディみかこ	13歳になった「ぼく」に親離れの季節が——「一生モノの課題図書」、完結。中学生の「ぼく」の日常は、今も世界の縮図のよう。授業でのスタートアップ実習、ノンバイナリーの教員たち、音楽部でのポリコレ騒動、ずっと助け合ってきた隣人との別れ、そして母の国での祖父母との旅——。“事件”続きの暮らしの中で、少年は大人へのらせん階段を昇っていく。80万人が読んだ「親子の成長物語」、ついに完結。

<p>塞王の楯</p>	<p>今村翔吾</p>	<p>どんな攻めをも、はね返す石垣。どんな守りをも、打ち破る鉄砲。「最強の楯」と「至高の矛」の対決を描く、究極の戦国小説！ 越前・一乗谷城は織田信長に落とされた。幼き匡介(きょうすけ)はその際に父母と妹を喪い、逃げる途中に石垣職人の源齋(げんさい)に助けられる。源齋を頭目とする穴太衆(あのをしゅう)(=石垣作りの職人集団)の飛田屋で育てられた匡介は絶対に破られない「最強の楯」である石垣を作れば、戦を無くせると考えていた。 大軍に囲まれ絶体絶命の大津城を舞台に、宿命の対決が幕を開ける。</p>
<p>九十八歳。 戦いやまず日は暮れず</p>	<p>佐藤愛子</p>	<p>『九十歳。何がめでたい』の待望の続刊！あれから5年、時は平成から令和にうつり、今秋98歳になる佐藤愛子さんが断筆宣言をした「さようなら、みなさん」を収録する「最後のエッセイ集」。タイトルは、1969年に発売され直木賞受賞作となった佐藤さんの小説『戦いすんで日が暮れて』の本歌取り。夫が作った莫大な借金をひとり背負い込んで奮闘する妻(=佐藤さん)の姿を活写し、愛子センセイが世に出るきっかけになった代表作のひとつ。それから52年、自身の最後となる本エッセイ集のタイトルに『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』と付けたのは、借金は返済したけれど、人生の戦いはやまず、今日も暮れていないー。愛子センセイが97年を生きて来た人生の実感。愛子センセイがハトハトになりながら綴った、抱腹絶倒のエッセイ全21編。</p>
<p>おもち</p>	<p>彦坂有紀 もりといずみ</p>	<p>おもちを焼きましょう。網の上におもちをのせて、さあ焼こう。じりじりじりじり、おもちがだんだん熱くなる。ちりちりちりり、ほんのり裏が焼けてきた。もう焼けたかな？ まあまだ、もう少し——。おもちに焼き色がつき、ふくらむ様子を美しい木版画で描く。おもちが焼けたら、磯辺焼きに、あんこもち、きなこもち、おいしそうなおもちをたくさん作って、さあどうぞ召し上がれ。おもちを焼いて食べるうれしさ、楽しさがつまった絵本。</p>
<p>アニメおさるのジョージ クリスマスまであとなににち？</p>	<p>マーガレット・レイ&ハンス・アウグスト・レイ</p>	<p>クリスマスまでになにをする？ ツリーをかざって、クッキーを焼いて、げきのれんしゅうをしてー。 ジョージはまいにち おおいそがし！クリスマスまであと1週間。この特別な日が待ち遠しくてたまりません。</p>
<p>【お知らせ】 新しい雑誌を配架しました！ ■一般書 NHKテレビテキスト「囲碁講座」 ■「すてきにハンドメイド」 ■「ESSE」 ■児童書</p> <div data-bbox="1290 1539 1785 1915" data-label="Image"> </div>		